

Topics④

「おまつりはうす」じゃない、「こまつりはうす」 ～いっぱい笑顔2022を振り返って～

知的障害児者地域生活支援センター こまつりはうす実行委員会 川島 修子



2020年からのコロナ禍の状況の中、利用者さんにとっての行事の在り方をこの間検討して進めてきました。当センターでは、毎年秋に地域との交流行事として利用者・家族・地域の方・ボランティアをはじめ沢山の皆さんの参加で「おまつりはうす」を開催してきました。ここ2年は規模を縮小しながらの実施を進めてきて、今年の開催方法についても検討を重ねてきた結果、「おまつりはうす」ではなく「こまつりはうす」として、感染

予防を十分に図るため、3階利用者、4階利用者とフロアを分けて令和4年11月11日（金）に開催しました。

3階フロアでは、午前中に「ムジグル」によるライブ、昨年度の利用者のリク



エストにもこたえて頂き、一緒にマイクで歌う様子や「空をめざして」の歌で身体を揺らして楽しんで

いる姿が見られ、澄んだ歌声と演奏が3階ホールに広がり、まさしく「いっぱい笑顔」をたくさん見る事が出来ました。

午後からはゲームコーナーで金魚すくいと風船釣りをを行い、風船釣りでは天井につるされた大きなバルーン、消防車、くまさん、ユニコーン等おのおの自分の欲しいバルーンを手に掴もうと果敢にチャレンジする姿が見られていました。一方の金魚すくいではグループのオリジナルポイで金魚に臨む利用者や



「とれへんな〜」「とれたわー」「もっととる」と言いながら楽しそうに金魚の置いてあるテーブルを囲んでいる姿が見られました。

また、4階フロアでは、会議室、廊下とフロア全部を会場として「金魚すくい」「だるま落とし」「的あて」「お菓子釣り」を行いました。ゲームで使用する備品は利用者、職員と一緒に作成し、皆で準備してきました。「お菓子釣り」には、当たり券もあり、当たりを釣った時は、会場中、歓声と笑顔に包まれました。（ちなみに当たりは、もう一回釣る事ができ、お菓子が2個もらえました。）短い時間ではありましたが、3階同様ににぎやかな雰囲気の中、たくさんの利用者の笑顔を見ることが



出来ました。
日々の活動に加えて、行事を通して見られる利用者さんの表情、いつもと違う時間の大切さを改めて感じた一日でした。いつか「こまつり」ではなく「おまつり」として開催できる日を待ち望みながら、今できる形で行事の在り方を工夫し利用者と楽しい時間をこれからもつくりたいです。